

鹿兒島工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	特別実習A(4週間)
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	建設工学専攻		対象学年	専1	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	実習受け入れ先担当者の指導による文献・資料				
担当教員	安井 賢太郎				
目的・到達目標					
実社会での活動を体験すると共に、実習テーマに応じ、今まで学んだそれぞれの専門分野および関連分野の知識がどのように活かされているかを理解する。また、実習先の担当者の指導およびアドバイスを受けながら、専門知識の修得は勿論のこと、実社会での技術者としての心構えを体得する。さらに、将来進むべく進路の判断材料を、この実習を通じて修得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
技術者としての社会的責任を自覚し、職業意識の向上を図る事ができる。	技術者としての社会的責任を自覚し、職業意識の向上を図るとともに、社会人としてのマナーを体得し、実践することができる。	実社会における技術者としての社会的責任を自覚し、職業意識の向上を図る事ができる。	実社会における技術者としての社会的責任を自覚し、職業意識の向上を図る事ができない。		
与えられた実習テーマに対し、専門的知識や現場での学習をもとに課題を解決する事ができる。	与えられた実習テーマに対し、課題の解決に取り組むとともに、より発展的な意見や提案を行う事ができる。	与えられた実習テーマに対し、専門的知識や現場での学習をもとに課題を解決する事ができる。	与えられた実習テーマに対し、専門的知識や現場での学習をもとに課題を解決する事ができない。		
技術者が直面する産業社会での問題点や課題を理解する事ができる。	実習を通じて、技術者が直面する産業社会での問題点や課題を理解し、自身の見解に基づく問題点の発掘を行う事ができる。	技術者が直面する産業社会での問題点や課題を理解する事ができる。	技術者が直面する産業社会での問題点や課題を理解する事ができない。		
特別実習において取り組んだ内容について報告書としてまとめ、成果を発表することができる。	特別実習において取り組んだ内容を報告書としてまとめ、成果を発表するとともに、実学の経験をどのように生かしていくか自身の言葉で述べる事ができる。	特別実習において取り組んだ内容について報告書としてまとめ、成果を発表することができる。	特別実習において取り組んだ内容について報告書としてまとめ、成果を発表する事ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達目標 2-2 学習・教育到達目標 3-3 学習・教育到達目標 4-2 JABEE (2012) 基準 1(2)(b) JABEE (2012) 基準 1(2)(d)(3) JABEE (2012) 基準 1(2)(d)(4) 教育プログラムの科目分類 (4)②					
教育方法等					
概要	各自が選択した実習テーマで、学校における授業とは異なった視点から現場学習を行う。この体験を将来の進路選択に活用する。就職以前に実社会の有り様を経験しておくことは、自分の選択した進路の現実と描いたイメージとのギャップに失望して進路変更せざるを得なくなることを防ぐと共に、その後の学習意欲の高揚に役立つ。				
授業の進め方と授業内容・方法	各自が選択した実習テーマで、学校における授業とは異なった視点から現場学習を行う。この体験を将来の進路選択に活用する。				
注意点	特別実習により実社会についての総合的な理解を深め、さらに専門的知識の修得の重要性を認識する。また、技術者として相手の立場に立って物事を考える必要性について、実社会での体験を通じて深める。実習に先立ち行われる講習会には、必ず参加すること。また、実習後は成果報告会が開催される。実習内容に関して、事前に調査し、準備しておくこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標	
		1週	協力企業に約4週間程度出向き、受入企業から提供される実習テーマに基づいて実習を行う。	技術者としての社会的責任を自覚し、職業意識の向上を図る事ができる。	
		2週	協力企業に約4週間程度出向き、受入企業から提供される実習テーマに基づいて実習を行う。	与えられた実習テーマに対し、これまでに学んだ専門的知識や現場での学習をもとに課題を解決し、まとめる能力を養う事ができる。	
		3週	協力企業に約4週間程度出向き、受入企業から提供される実習テーマに基づいて実習を行う。	技術者が直面する産業社会での問題点や課題を理解する事ができる。	
		4週	協力企業に約4週間程度出向き、受入企業から提供される実習テーマに基づいて実習を行う。	建設工学専攻学生としての専門知識と関連知識の理解を深めると共に、将来進むべき実社会の実態を理解し、今後の進路決定の参考とする。	
		5週			
		6週			
		7週			
	8週				
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
16週					

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート	受入機関の評価	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	20	60	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	20	0	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	60	0	0	60